



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北大法学論集, 15(3), 125-130
Issue Date	1965-02-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/16050
Type	other
File Information	15(3)_p125-130.pdf



北海道大学法学部法学会記事

(昭和三十九年一月〜昭和三十九年二月)

九、一〇月九日(金)午後一時三〇分より

○「ドイツ三月革命と自由主義」

報告者 矢田俊隆

ドイツ一八四八―四九年革命の意義と挫折の過程を、自由主義の特殊ドイツ的性格と革命の担い手に焦点をあてて説明。英仏市民革命と対比しつつ懇談。

一〇、一〇月二三日(金)午後一時三〇分より

○「国際私法における国籍決定の問題(朝鮮人の本国法)」

報告者 欧龍雲

主として朝鮮人の国籍の問題を取りあげ、南鮮北鮮の場合を対比しつつ、朝鮮人と婚姻した日本婦人の国籍問題について報告、懇談。

一一、一一月二三日(金)午後一時三〇分より

報告者 小菅芳太郎

○「江藤新平をめぐる」

既存の江藤研究を詳細に紹介し、わが国における近代法形成史上の法思想的立場づけが論ぜられた。

一二、一一月二七日(金)午後一時三〇分より

報告者 深瀬忠一

○「日本における憲法学の新傾向——小林直樹教授の近著について——」

小林教授の「日本における憲法動態の分析」、
「日本国憲法の問題状況」の二著作を紹介し、社会科学としての憲法学の劃期的業績と評価、問題点を議論。

一三、一二月一日(金)午後一時三〇分より

○「挙証責任の諸相——シンポジウム——」

報告者

民事訴訟 小山昇

刑事訴訟 田宮裕

行政訴訟 神谷昭

憲法訴訟 深瀬忠一

今村成和教授の司会により、各部門における挙証責任の問題を取り上げ議論を展開。

なお同日午後五時三〇分より

○横山敬子さんを偲ぶ会

元法学部(法学会)助手・横山敬子さんの一周忌にあたり、生前の横顔など、友人中野美代子(文学部)助手等から話され、宮崎孝治郎名誉教授から寄せられたはなむけの言葉が読まれ、出席者十数名でその生前を偲んだ。

号二五三七頁)

石川恒夫

一一、一〇月三〇日(金) 最高裁判所判例研究

○ 一、村民の村道使用関係の性質

二、村民の村道使用権に対する侵害の継続と妨害排除請求権の成否(民集一八卷一号一頁) 五十嵐 清

○ 対抗力を具備しない土地賃借権者に対する建物収去土地明渡の請求が権利の濫用となるとされた事例(民集一七卷五号六三九頁) 神田孝夫

○ 一、証券業者の外務員の権限

二、外務員を通じて証券業者と顧客との間で株式の売買取引の委託がなされた場合における当該外務員と証券業者間の代理関係の有無(民集一七卷二二号一五九六頁) 石田 満

一一、一月六日(金) 最高裁判所判例研究

○ 境界確定訴訟の控訴審と不利益変更禁止の原則(民集一七卷九号一二二〇頁) 渡 辺 正昭

○ 借家人の無断増築が著しい不信行為であるとして無催告の賃貸借契約解除が有効とされた事例(民集一七卷八号一〇六九頁) 後藤 徹

○ 賃貸家屋の修繕義務の不履行を理由に賃料支払を拒絶できないとされた事例(民集一七卷二二号一四七七頁) 柏木邦良

一一、一月二〇日(金) 最高裁判所判例研究

○ 一、売買予約が実質的に消費貸借上の借入金債務を担保するためになされた場合予約権利者は売買未払金につき反対債権をもって相殺できるか。

二、登記上の利害関係人は本登記義務者の同時履行の抗弁権を援用できるか。(判例時報三八二号三四頁) 川井 健

○ 借地上建物の仮装譲渡の無効は土地賃借人に対抗しうるか(民集一七卷一一号一四四六頁) 川井 健

○ 病院ストの正当性の限界。(判例時報三八〇号六頁) 佐保雅子

一四、二月四日(金) 最高裁判所判例研究

○ プライバシーの権利侵害による不法行為の成否——いわゆる小説「宴のあと」事件(判例時報三八五号一二頁) 五十嵐 清

○ 相続権を侵害された者の相続人が右侵害者に対して有する相続回復請求権の消滅時効の起算点(民集一八卷二二号三三三頁) 山 島 正男

○ 借地法第一〇条に基づく建物買取請求権行使によって成立する売買と民法第五七七条適用の有無(民集一八卷二二号三三三頁) 柏木邦良

○ 手形裏書が商法第二六五条の取引にあたらぬとされた事例(民集一八卷一八〇頁) 藤原雄三

一五、二月一八日(金) 最高裁判所判例研究

○ 一、債務引受と財産引受との關係

二、開業準備行為と発起人の権限（民集一七卷二二号一七四四頁）
渡 辺 正 昭

○ 会社の被用者が私用のため会社の自動車を運転中他人に加えた損害が民法第七一五条の会社の「事業ノ執行ニ付キ」生じたものとされた事例（民集一八卷二二号二五二頁）
神 田 孝 夫

○ 農業協同組合の運転手が私用のため組合所有の自動車を無断運行中事故を発生させた場合、右組合が自動車損害賠償保障法第三条にいう「自己の為に自動車を運行の用に供する者」にあたりとされた事例（民集一八卷二二号三一五頁）
神 田 孝 夫

○ 一、銀行業者が不当利得した金銭を利用して得た運用利益と民集第一八九条第一項の適用の有無
二、不当利得された財産に受益者の行為が加わることによつて得られた収益についての返還義務の範囲
三、銀行業者が不当利得した金銭によつて得た法定利率による利息相当額以内の運用利益につき返還義務があるとされた事例（民集一七卷一一号一七二〇）
後 藤 徹

○ 有毒性物質である硼砂を混入して製造したアラレ菓子の販売契約が民法第九〇条により無効とされた事例（民集一八卷一七号三七頁）
菅 原 勝 伴

北海道大学法学部公法研究会記事

（昭和三九年一〇月～昭和三九年一二月）

七、一〇月一六日（金）判例研究

○ 昭和女子大学事件―私立大学と国公立大学の在学関係の法的性質（東京地裁昭和三八年一月二〇日判例時報三五三三頁）
今 村 成 和

八、一二月六日（金）判例研究

○ 詐害行為取消請求控訴事件―改正前の国税徴収法一五条、三条の法意その他（福岡高裁昭和三八年七月一七日判例時報三五三三三頁）
栃 内 昌 子

○ 損害賠償請求控訴事件―執行吏の代替執行方法が違法であるとして国家賠償の請求が認められた事例（名古屋高裁昭和三八年九月二七日判例時報三五三三三〇頁）熊 本 信 夫
○ 青色申告書提出承認取消処分取消等請求事件―課税処分取消訴訟の性質（東京地裁昭和三八年一〇月三〇日判例時報三五四号一五頁）
神 谷 昭

九、一二月二〇日（金）判例研究

○ 贈与税決定処分取消請求控訴事件―税務署長がした決定通知書の送達の不瑕疵と決定の効力（大阪高裁昭和三八年五月一四日判例時報三五四号二四頁）
鳥 居 信 之

○ 所有権移転登記請求売買事件—契約の解除と農地法三條の適用（最高裁昭和三八年九月二〇日判例時報三五四号二七頁）
深瀬忠一

○ 原爆投下国際法違反判決—広島・長崎での原爆投下は国際法違反である（東京地裁昭和三八年二月七日判例時報三五五号一七頁）
小岩洋

一〇、一二月四日（金）判例研究

○ 道路運送法違反事件—自家用自動車による有償運送行為の禁止と職業選択の自由（最高裁昭和三八年二月四日判例時報三五五号三三頁）
林茂保

○ 損害賠償請求事件—農地買収処分と地上の立木（東京高裁昭和三八年七月一七日判例時報三五五号四九頁）
今村成和

一一、一二月一八日（金）判例研究

○ 風俗営業取締法違反事件—風俗営業の名義貸と条例による規制（東京高裁昭和三八年七月二五日判例時報三五五号七八頁）
栃内昌子

○ 代執行停止申立事件—行政事件訴訟法二五條五項による求意見の催告期間を一日で足るとした例（東京高裁昭和三八年八月二三日判例時報三五六号三一頁）
熊本信夫

北海道大学法学部刑事法研究会記事

（昭和三九年一〇月〜昭和三九年一二月）

一〇、一〇月二〇日（火）

○ 道路交通法第七二條第一項前段にいう負傷者を救護した場合に当たらないとされた事例（最高裁昭和三八年四月三〇日最判一七卷三号二五四頁）
林茂保

○ 公務員職務濫用罪が成立するとされた事例（最高裁昭和三八年五月一三日最判一七卷四号二七九頁）
飯野昌男

○ 窃取した持参人払式小切手を呈示して小切手支払名下に金員を交付させた行為と詐欺罪の成立（最高裁昭和三八年五月一七日最判一七卷四号三三六頁）
五十嵐紀男

一一、一〇月三十一日（土）

○ 起訴後作成された被告人の捜査官に対する供述調書の証拠能力（最高裁昭和三六年一月二日最判一五卷一〇〇号三四頁）
吉川寿純

○ 検察官において被告人以外の者の供述者の眞の氏名住居を知りながら虚偽の氏名住居を表示して作成した供述調書の証拠能力（大阪高裁昭和三八年一月二四日判例時報三三一号三四頁）
三輪泰二

一二、一一月一〇日（火）

○ 法令上の根拠なくして県知事に委託された国の行政事務が

贈収賄罪における本来の職務と密接な関係のある行為にあたることされた事例（最高裁昭和三八年五月二一日最判一七卷四号三四五頁）
鳥居 信之

○ ポポロ事件

一、憲法第二三条の趣旨

二、学生集会と大学の有する学問の自由および自治（最高裁昭和三八年五月二二日最判一七卷四号三七〇頁）
栃内 昌子

一三、二月八日（火）

○ 松川事件―刑訴第四〇五条にいう「判例と相反する判断をした」というためには、その判断が原判決に示されていることを要するか。自白がその信用性に疑いがあるが、有罪の証拠とすることは許されないとされた事例（最高裁昭和三八年九月二二日最判一七卷七号）
田宮 裕

○ 関税法第一一八条にいわゆる犯人の意義（最高裁昭和三八年五月二二日最判一七卷四号四五七頁）
小岩 洋

一四、二月二日（土）

○ 道路交通法七〇条違反の罪（安全運転義務違反）について

一、故意犯と過失犯の成立する場合

二、故意犯と過失犯が競合した場合の関係

三、業務上過失致死傷罪との関係

菊池 信男

○ 公訴事実の同一性がなくして、無罪の言渡をした事例

（神戸地裁姫路支部昭和三八年九月六日） 丸山 忠三

北海道大学法学部政治学研究会記事

（昭和三九年一月～昭和三九年二月）

四、一〇月一五日（木）、一〇月三〇日（金）、十一月二日（土）

○ Ostrogorski, Democracy and the Organization of Political Parties の研究会

五、二月二日（火）

○ 冷戦と米国の戦略論の変遷

報告者 永井 陽之助

あとがき

さる二月二十五日未明、突如として神谷教授が逝かれた。人の計はかなしく、はかない。これより同教授の名は表紙裏の名簿から消える。

いまはただ、温容をしのびご冥福を祈らう。やがて、追悼号をまとめ、靈前に献げる日を期しつつ。